

社団法人 日本理学療法士協会 富山県士会



会 報 と や ま

今号の内容

平成22年度

No. 2

(通算118号)

総会員数475名 (休会58名)

全134施設

理学療法週間事業 活動報告	2
平成22年度 北陸三県役員交流会報告	3
理事会報告	4
地区連絡会だより	5
新入転入会員歓迎会を終えて	5
新入会員紹介	6～10
事務局インフォメーション	10
研修会報告	11～16
私のおすすめBook	17
青年海外協力隊通信 ファイナル	18～19
リレーエッセイ	20
編集後記	20
広告案内	21



7月25日 イオンモール高岡 イオンホールにて

理学療法週間事業 活動報告

広報部 炭 谷 勇

今年の理学療法週間事業は7月25日(日)に前年に引き続きイオンモール高岡2階のイオンホールで行いました。

内容としてはリハビリ相談、進路相談、体力測定(血圧、体重、握力など)、福祉用具の展示・体験、DVD上映、ポスター・写真展示、ドリンクコーナー、粗品配布を行いました。

例年は、10時のイベント開始からしばらくは来場者もまばらであります、今年は田村副会長のエネルギーな呼び込みの成果もあってか大盛況のスタートとなりました。



体力測定では10代、20代の参加者が目立ち、ゲーム感覚で楽しむ様子が見られました。また、少年・少女たちは車いす・シニアカーをゴーカートのようになり回り会場の雰囲気を盛り上げてくれました。一方でスタッフ側は、ものすごい勢いで粗品(エコバッグ、ボールペン、うちわなど)が配布される為、来場者の対応に加え袋詰め作業と

大忙しの時間となりました。そのような賑やかなコーナーの対角では県士会の重鎮が相談に訪れた方に巧みな技と持ち味を生かした応対をしていただき、本事業が地域の保健と福祉に寄与するという大きな役割も果たせたように思われます。

出足は衰えることなく午後3時のイベント終了時刻になっても会場内をのぞきに来る方がおられるなど大・大・大盛況のイベントとなりました。

暑い天候もあり、配布した「理学療法」の文字入りうちわを持ちイオン店内を歩く方が多く見られ、広報活動は成功裡に終わったのではないかと思います。事業運営にご協力いただいた皆様ありがとうございました。また、株式会社メディパック、株式会社ウイル、カナヤママシナリー株式会社の3社には福祉用具、車いす等の展示・説明など本事業にご協力をいただきお礼申し上げます。

今後も広報部の活動にご協力よろしくお願いいたします。



平成22年度 北陸三県役員交流会報告

日 時：平成22年7月3日(土) 15:00～

場 所：いこいの村磯波風(富山市婦中町細谷)

出席者：21名

石川県士会(7名)、福井県士会(3名)、
富山県士会(11名)：塚本、田村、島倉、
寺田、酒井、堀尾、増山、柴田、池田、
大野、滝田



〈報告・協議内容〉

富山県士会

現在の会員数474名(132施設)。新入会員は40名。平成22年度事業計画に基づき、学術局、教育局、職能局、公益事業局、事務局活動について報告した。また、地区連絡会活動や第16回富山県理学療法学術大会および来年度富山で開催される第27回東海北陸理学療法学術大会準備状況について説明した。

福井県士会

会員数は525名(105施設)。新入会員は48名。平成22年度予算は919万円。第26回東海北陸理学療法学術大会に関する準備の進捗状況などが説明された。また総括事業として公益法人格取得、士会組織の滞りない管理運営および協会との連携強化、協会会員証の普及に取り組んでいる事が報告された。

石川県士会

会員数636名(127施設)。平成22年度予算は724万円。公益事業としては水中運動療法事業、健康増進事業、生活習慣予防事業、スポーツ障害予防事業、介護福祉事業、理学療法週間事業。職能関連事業としてはいしかわ地域理学療法ネットワーク事業、県内理学療法士の勤務実態調査などがある。学術事業としては理学療法研修事業として9の研修会と学術研修会を年3回行っている。新人教育事業として研修会を年4回開催。石川県理学療法学雑誌の発行を行っている。その他に公益法人への移行、ニュース発行、メールマガジン発行を行っている。

〈質疑・ディスカッション〉

- ・訪問リハビリテーション推進に対して協会の動向にあわせて進めていく(同意)
- ・臨床実習指導者会議の持ち回りについて次回のブロック会議で提案する(同意)

Q：政治連盟の活動はどのようにしているか(富山)

A：積極的に活動している(福井) あまり活動していない(石川)

Q：新人の他県士会員の研修会参加費はどのように対応すればよいか。(富山)

A：各研修会ごとの規定に則ることとする(石川 福井 富山)

Q：ホームページでの他団体から掲載についての規定はあるのか。(福井)

A：特に規定はないが、管理している人の判断となっている(石川 富山)

平成22年度 第2回 理事会報告

日 時：平成22年5月13日(木) 18:45～
場 所：富山市民病院リハビリテーション科
出席者：塚本 田村 島倉 滝田 川合
酒井 堀尾 森山 森田 柴田
池田 永山・宮原(書記)

〈報告事項〉

○事務局：PT協会・他県士会・関連団体からの事務局宛郵送物、公文書発行、会員異動について報告。

〈検討事項〉

1. 専門領域研究部と卒後教育部の方向性：新人教育プログラム終了後2年間の認定研修、5年間の専門研修への対応について話し合われる。県士会としては、認定理学療法士の取得に向けて、専門領域研究部と卒後教育部が支援していく。
2. 北陸三県理学療法士役員交流会：平成22年7月3日にいこいの村磯波風にて、当士会が企画して開催予定。
3. 民主党・衆議院議員山口和之氏のサポーター登録：5月23日(日)の総会開催日に、会員向けに案内する。
4. 新人・転入歓迎会：平成22年6月20日に富山医療福祉専門学校で開催される。
5. その他：
 - 1) 喀痰の吸引について、厚労省が「理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床工学技士による実施が現行法で可能とする方針」を示したため、県士会で吸痰の研修会開催を検討する。
 - 2) 富山県福祉用具連絡協議会主催で、平成22年6月5日(土)に開催される研修会について、当士会へ講師依頼があり承諾された。テーマは、「理学療法士と福祉用具専門相談員との連携について」であり、副会長の田村が講師を務める。

平成22年度 第3回 理事会報告

日 時：平成22年7月3日(木)
場 所：いこいの村 磯波風
出席者：塚本 田村 島倉 寺田 酒井
堀尾 増山 柴田 池田 滝田
大野 書記：有島

〈報告事項〉

- 事務局報告事項：事務局郵送物、公文書発行、会員移動状況等の報告。
- 理学療法基礎系研究会・物理療法研究会共同開催研修会：平成22年5月23日富山医療福祉専門学校にて『痛みの最先端—基礎研究と臨床での実践』をテーマとし、講師として田口徹氏(名古屋大学) 大道祐介氏(愛知医科大学) 大道美香氏(愛知医科大学)の3名を迎え研修会が行われた。参加者117名。
- 第39回日本理学療法士協会総会並びに代議員会報告：平成22年5月26日に岐阜都ホテルにて行われた総会および代議員会の内容を代議員より報告。平成22年度事業報告、第48回理学療法学会大会開催案などを協議されたことが報告された。
- 卒後教育研修会報告：平成22年6月20日富山医療福祉専門学校にて研修会が開催。その後福利厚生部による新入・転入会員歓迎会が行われ参加者は約50名。

〈検討事項〉

1. 卒後教育部と厚生部員について：今年度の入会会員からは卒後教育部または厚生部の委員として在籍することが確認された。
2. 北陸三県理学療法士役員交流会の提出議題について：県外での新人プログラム履修時、または県外会員のプログラム履修時の費用負担はどのようにすべきかが検討された。各研修会に合わせることにした。
3. 訪問リハビリテーション啓発活動について：日本理学療法士協会の動向を報告。富山県士会としても活動を進めていくことが確認された。
4. 40周年記念事業の委員について：実行委員長の依頼することが確認された。

地区連絡会だより

富山南部地区

八尾総合病院 池田 裕哉

7月28日に八尾総合病院にて、今年度第1回目の富山南部地区連絡会を開催し、14施設30名の参加がありました。

まずは、各病院・施設の近況もふまえての自己紹介を行いました。次に、4名の先生にパワーポイントを用いて、約10分～15分程の時間で、各病院・施設の紹介をしていただきました。内容としては、法人の関連施設、病床数、リハビリスタッフ数、患者層、取り組み、風景写真などであり、各病院や施設の特徴などが具体的によく分かりました。また、質疑応答やその他情報交換も活発に行われ、非常に有意義でありました。

次回は秋以降に懇親会を行う予定です。



「平成22年度新入転入会員歓迎会を終えて」

富山県高志通園センター 木内 彰



平成22年6月20日（日）に、富山医療福祉専門学校の食堂にて平成22年度の新入転入会員歓迎会および士会オリエンテーション「協会組織と機構」を開催しました。

当日は午前中に卒後教育研修会が開催されていたこともあり、日曜日であったにも関わらず、既会員26名、新入転入会員39名と多数の先生方に参加いただきました。

今年度はあらかじめ食事と飲み物を各テーブルに配置しておいたこともあり、自己紹介の後には、近隣の病院・施設の先生方同士コミュニケーションがとれ、活発に話されているようでした。このことが新人理学療法士の皆さんが今後の業務を進めていく上で手助けになればと思っています。

歓談の後には副会長の島倉先生より「協会の組織と機構」のオリエンテーションを行っていただき、富山県士会の歴史やシステム、最近の動向などお話いただきました。新入転入会員の皆様も熱心に聞き入っておられました。

たくさんの新入転入会員の皆様に参加していただいたおかげで、歓迎会は今年度も盛況に行うことができました。近年、富山県士会の会員数は毎年約40名ずつ増加しています。そのため会員一人一人の顔が見えづらくなってきているようにも思います。こんなときこそ福利厚生事業が活かされるのではないのでしょうか。福利厚生事業に積極的に参加し、スポーツや懇親会を通して様々な先生方と交流を深めることが、今後の業務を進めていく上での財産になると思います。経験年数の多い先生方や自分と同じような環境の中で働いておられる先生方に気軽に助言をお願いすることができるようになると思います。

新入転入会員の皆様に限らず、県士会員の皆様の福利厚生事業への積極的な参加をお待ちしています。



新入会員紹介

平成 22 年度、富山県士会に入会された皆さんをご紹介します。

アンケート内容

①氏名 ②血液型・星座 ③特技 ④自己 PR

〈新川地区〉

丸川病院

① 経 沢 和 也

- ② A 型・お牛座
- ③ サッカー
- ④ ポジティブな性格なので日々向上心を持って頑張っていきたいです。サッカーで培った「チームワーク」を生かして、病院スタッフと上手く連携をとり患者様のニーズにこたえられる PT になりたいです。



医療法人社団 双星会 たまの整形外科クリニック

① 濱 田 親 保

- ② B 型・かに座
- ③ スポーツ(野球)
- ④ PT 1 年目の濱田です。これからよろしくをお願いします。



医療法人社団 一志会 池田リハビリテーション病院

① 平 崎 一 輝

- ② B 型・おひつじ座
- ③ “一度通った道は、忘れないこと”です。
- ④ 今はまだ、理学療法士になりたての新人ですが、自分に向上心を持ち、一日でも早く一人前の理学療法士になれるよう日々頑張っていきたいと考えています。



あさひ総合病院

① 金 山 真樹子

- ② O 型・双子座
- ③ いつでもどこでも寝れること
- ④ まだまだ分からないことだらけですが頑張りたいと思います！



① 橋 本 成 彬

- ② A 型・水瓶座
- ③ 旅行
- ④ 念願の PT になることができ、大変嬉しく思っています。患者さんの助けになれるよう頑張ります。どうぞ宜しくお願いします。



医療法人社団 福寿会 新川老人保健施設

① 吉 村 信 哉

- ② A 型・乙女座
- ③ パソコン
- ④ 今年度より理学療法士として働くことができるようになりました。まだまだ戸惑うことが多く、いろいろな方々に助けていただいておりますが、精一杯頑張りますので、よろしくおねがいします。



桜井病院(黒部市)

① 池 田 恵

- ② A 型・しし座
- ③ ジャージ等のひもが中に入っていった時に、再度引っぱり出すこと。
- ④ 一生懸命学び、考え、やってみて、の繰り返しで、これからも頑張ろうと思います。喋ると、よくかみますが、話好きなので、皆さん仲よくして下さい。



魚津病院

- ① 瀬川 華 澄
- ② O型・おうし座



- ① 高堂 香 織
- ② O型・おひつじ座



〈富山北部地区〉

流杉病院

- ① 中村 悠 加
- ② O型・みずがめ座
- ④ 精一杯頑張りたいと思います。
よろしくお願いします。



済生会富山病院

- ① 高柳 賢
- ② AB型・うお座
- ③ 料理
- ④ これから色々お世話になる事があると思
うのでよろしくお願いします。



社会福祉法人 とやま虹の会 老人保健施設レインボー

- ① 堀 郁也
- ② O型・いて座
- ③ 車イスバスケ
- ④ アッサリ、バッサリがんばります。



富山協立病院

- ① 廣本 祥 子
- ② O型・魚座
- ③ 字を書くこと、
ジブリのものまね
- ④ 私の職場では、退院前訪問を積極的
に行っています。患者様が安全な自宅生
活を送れるように、支援できるPTに
なりたいと思っています。



介護老人保健施設 仁泉メディケア

- ① 安井 将 志
- ② A型・おとめ座
- ③ バドミントン
- ④ いつ何時も全力リハビリで頑張ります。



富山県高志 リハビリテーション病院

- ① 栗山 敬 弘
- ② O型・さそり座
- ③ 走ること
- ④ 運動不足解消に走り始めました。よろ
しくお願いします。



アルペン リハビリテーション病院

- ① 中井 悠 樹
- ② O型・いて座
- ③ スポーツ
- ④ 自分の目指しているPTになる為、一
生懸命をモットーに頑張ります。宜し
くお願いします。



- ① 生地 祐 喜
- ② B型・さそり座
- ③ スポーツ
- ④ 皆さんと技術や知識を高め
あっていききたいと思います。



野村病院

- ① 桐澤 嘉 孝
- ② O型・魚座
- ③ 弓道
- ④ 岐阜の学校を卒業して地元である富山
に就職しました。毎日楽しみのあるリハ
ビリを目指して日々頑張っている仕事
をしています。まだまだ、勉強することは
大変多くありますがよろしくお願いします。



- ① 西村 卓 朗
- ② O型・かに座
- ③ 野球
- ④ 何事にも一生懸命頑張ります。
よろしくお願いします。



〈富山中央地区〉

佐伯病院

- ① 荻田 譲
- ② A型・かに座
- ③ ものまね
- ④ まだまだ未熟ですが、今後共、宜しくお願い致します。



西能病院

- ① 魚津 千春
- ② O型・うお座
- ③ 早寝・早起き
- ④ 3月末にPTの合格発表があつてから、5ヵ月がたちました。まだまだ未熟ですが、1日でもはやく、患者さんの力になれるようにがんばります。



- ① 酒井 雄平
- ② O型・ふたご座
- ③ 大きな声で数を数える
- ④ 一度しかない人生せっかく選んだ道だから一生懸命頑張ります。



- ① 織田 恵美子
- ② O型・蟹座
- ③ 長時間寝れます
- ④ 慣れない事ばかりですが、笑顔いっぱい頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



- ① 竹村 祐未
- ② B型・いて座
- ③ 記憶力
- ④ 学生時代培ってきた洞察力で、物事を的確に対処し、どんな事にも笑顔で取り組んでいきたいと思ひます。よろしくお願いします。



大沢野老人保健施設 かがやき

- ① 米澤 徹哉

〈富山南部地区〉

山田温泉病院

- ① 伊東 克晃
- ② A型・てんびん座
- ③ バスケットボール
- ④ 技術はないですが“やさしさ”がうりのPTです。これから精一杯がんばります。よろしくお願いします。



- ① 長井 麻衣子
- ② B型・かに座
- ③ ラテアート
- ④ 4月から社会人として働きだしました。まだまだ未熟で、周囲の方々に支えていただくことが多く、感謝感謝の毎日です。日々成長していけるように努力していきたいと思ひます。よろしくお願いします。



八尾総合病院

- ① 田村 和子
- ② O型・ふたご座
- ③ バレーボール・ハンドボール
- ④ 新潟から来ました。一人でも多くの患者様に「ありがとう」と言っていたけりように笑顔で頑張ります。よろしくお願いします。



- ① 下本 貴恵
- ② O型・しし座
- ③ 手相占い
- ④ 元気が取り柄です。身体面、心の面への関わりによって、患者様やご家族の方々の心からの笑顔を引き出していけられるように頑張りたいです。よろしくお願いします。



- ① 漆原 藍
- ② A型・やぎ座
- ③ クラリネット・サクソ
- ④ 笑顔で患者様と接し、良いリハビリができるように頑張りたいです。色々なことに興味を持って勉強していきたいと思ひます。



介護老人保健施設 みどり苑



- ① 若 林 麻 華
- ② A型・かに座
- ③ バルーン・アート作れます。
トランペット吹けます。
- ④ 笑顔と向上心を忘れずに、頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

〈高岡地区〉

老人保健施設 アルカディア氷見



- ① 小 西 達 矢
- ② AB型・おとめ座
- ③ 釣り・マラソン
- ④ 自分の長所は誰とでも平等に、思いやりをもって接すること、常に相手の立場になって物事を考えることだと思います。これを生かして多くの患者様に医療を提供していければと思います。

金沢医科大学 氷見市民病院



- ① 廣 瀬 悠 基
- ② B型・おうし座
- ③ サッカー
- ④ 常に学ぶ姿勢を忘れずに、多くのことを学び、周りの大きな方々に負けずに、外見、中身共に大きく成長していきたいと思っています。

介護老人保健施設 アルカディア雨晴



- ① 東 海 愛
- ② O型・うお座
- ③ バレーボール
- ④ 充実した日々が送れるように、仕事も遊びも頑張ります。日課は毎朝、海沿いを散歩すること。これから、いろいろなことにどんどん挑戦していきたいです。

① 宮 本 祐 介



- ② A型・おとめ座
- ③ クロダイ釣り
- ④ 新潟から来ました。優しい先輩達に囲まれ日々頑張っています。これから毎日氷見牛・寒ブリを食したいと思っています。先輩方ごちそうさまです。

介護老人保健施設 エルダーヴィラ氷見



- ① 高 田 元 喜
- ② A型・みずがめ座
- ③ 料理
- ④ 趣味は食べ歩きです。明るく元気に頑張りたいです。

介護老人保健施設 みしま野苑一穂



- ① 茨 木 彰
- ② B型・うお座
- ③ 特になし
- ④ 学生の頃からイジられキャラで毎日イジられながら仕事してます。まだわからないことばかりですが楽しくやっていきたいと思うのでよろしくお願いします。

特別養護老人ホーム ほのぼの苑



- ① 岡 本 崇
- ② A型・ふたご座
- ③ ベース演奏
- ④ お隣の県、石川県から4月より富山県に来ました。大自然の恵み豊かな富山県の魅力を日々感じながら、毎日を送っています。仕事を通じて、皆様のために貢献できるように頑張ります。

介護老人保健施設 きぼう

① 河 原 未沙希

〈砺波地区〉

中川整形外科 クリニック



- ① 畔川 慎一
- ② O型・いて座
- ③ 綾波レイのモノマネと右打ち
- ④ はじめまして、畔川（あぜかわ）です。先輩方から色々な事を吸収して、自分にできる事を一つずつ増やしていきたいです。貫禄がでるように、ヒゲが似合う大人になりたいです。

介護老人保健施設 ゆうゆうハウス



- ① 中本 江美
- ② A型・双子座
- ③ スノーボード 胡弓が弾けます
- ④ リハビリを必要としている方の手助けができるよう、一生懸命考え、より多くの方の在宅復帰の手伝いができるよう知識・技術を高めていきたいと思っています。よろしくお願い致します。

砺波誠友病院



- ① 竹 沢 真名美
- ② A型・しし座
- ③ お菓子作り
- ④ PT1年目の竹沢です。仕事もプライベートも楽しんで頑張っていきたいと思っています。よろしくお願いします。



- ① 鹿 島 達 弥
- ② A型・おうし座
- ③ 特になし
- ④ よく人見知りをしてしまう私ですが、仲のよくなった方々からはいじられることが多いです。まだ分からないことが多々ありますが、一生懸命頑張りますのでこれからもよろしくお願いします。

事務局 インフォメーション

- 職場の異動や自宅住所の変更等がある場合はお早めに異動届を事務局に提出願います。その際は出来るだけ書類を郵送でお願いします。
- 職場で会員のご結婚の予定がおわかりでしたら、事務局へご一報願います。事務局より祝電にて祝福させていただきます。

職能局の相談窓口

職能に対して、職能局では電話による相談を受け付けています。お気軽に何でもお尋ねください。
TEL (0765) 23-1294 FAX (0765) 23-1073 魚津市地域包括支援センター 森山まで
E-mail akira-moriyama@city.uozu.lg.jp

研 修 会 報 告



理学療法基礎系研究会・物理療法研究会共同研修会

「痛みの最先端—基礎研究と臨床での実践—」

富山大学神経整復学講座 浦 川 将

本年の理学療法基礎系研究会は、物理療法研究会と共同開催で「痛み」を取り上げました。5月23日に100人を超える参加者の中、痛みの研究・臨床実践に取り組んでおられる3人の講師の先生方にご講演いただきました。

名古屋大学の水村（日本疼痛学会会長）研究室に所属し、研究しておられる田口 徹先生に「骨格筋に起因する痛み研究のUpdate」をテーマにご講演いただきました。田口先生は、いわゆる遅発性筋肉痛（運動後1～3日遅れて出現する骨格筋の痛み）のラットモデルを発表（*J Physiol*, 564:259-68, 2005）後、筋肉痛発生の条件や神経系の役割を中心に研究を進めておられま



講師 田口 徹 氏

す。ご講演では、多くの理学療法士にとって馴染みの少ないラットを用いた実験を、わかりやすく説明していただきました。身近な問題である「骨格筋に起因する痛み」に関してまだまだわかっていないことが多く、世界的な痛みの学術機関である国際疼痛学会の方針として、骨格筋の痛みを研究の中心として位置づけ、痛みの機序解明に向けて取り組んでいるとのことでした。



講師 大道 裕介 氏

愛知医科大学の学際的痛みセンターで、研究と臨床の両方に取り組んでおられる大道美香先生、大道裕介先生に、「愛知医科大学学際的痛みセンターにおける取り組み」との内容でご講演いただきました。同センターは、痛み研究で著名な熊澤先生が立ち上げられた、痛みに対して診療科や職種の壁を越えて取り組むことを理念に、痛みの治療・研究・教育を集中して行う総合的医療センターです（熊澤孝朗著「痛みを知る」東方出版）。痛みの治療で特に問題となる慢性痛に関して、ラットモデルによる病態解明と、実際の臨床での取り組みを紹介していただきました。慢性痛患者さんは、長期に及ぶ痛みのために神経回路に可塑的な変容が生じ、病的痛みをもたらすことでさらに複雑な難治性の一途をたどると考えられています。このような患者さんの病態理解には、多角的な評価と治療が必要であり、医師の他に理学療法士はじめ看護師、臨床心理士などの多職種の臨床専門家と基礎科学者の協力のもとで治療を行うことが望ましいとのことでした。

講師の先生方は、痛みに取り組んでいる最先端の研究室・臨床現場でご活躍しておられる理学療法士であり、我々理学療法士が「痛み」のことを研究する・理解を深めることの重要性を、熱く語っていただきました。多数ご参加頂き、大盛況となりましたことを感謝申し上げます。



名古屋大学名誉教授、愛知医科大学学際的痛みセンターの熊澤孝朗先生（77歳）が平成22年7月26日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を表するとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。

★ 卒後研修会

平成22年6月20日に卒後教育研修会が富山医療福祉専門学校にて開催されました。

はじめに「生涯教育と理学療法の専門領域」と題して厚生連高岡病院の寺田一郎先生より、次に「理学療法の教育方法論」と題して南砺市民病院の堀尾欣三先生より講義がありました。

寺田先生からは、教育理念としてself education・self rehabilitationという基本的な概念を提示していただき、専門職の概念・新人教育プログラムの目標とその履修の進め方、そして生涯教育プログラムの目標とポイント制について、また専門理学療法士・認定理学療法士の説明がありました。

堀尾先生からは、人材育成手法としてのコーチングとメンタリングの違いについて説明され、その中で、メンタリングとは各人材の個性を尊重し、ある才能が例えなくても、他の才能があるのではと考え、将来の可能性を追求し、支援することであり、これは、未経験の若者、新人社員に対しても、将来の夢を語り、お手本を見せ、達成した時の喜びを伝えることで、挑戦を促し、個人のキャリアを支援するという活動ということについて説明していただきました。

また、CSI（コミュニケーション スタイル インベントリー）簡易版を使用し、自己主張・感情表出と言う二軸を基に人に四つのタイプに分けられることの説明を聞いた後に実際に取り組んで、自己分析をしました。自分や他者を知る一つの手法として新しい知見を得ることができました。新しく職場に入った新人職員や、これから患者指導、実習指導に関わる際に大いに参考になる事を学ぶことができる機会となりました。



【参加者の感想】

アルペンリハビリテーション病院 西村卓朗

今回、平成22年6月20日に開催された卒後教育研究会に参加させていただきました。

寺田先生に講演していただいた「生涯学習の進め方」では、教育理念や生涯学習システムについてのお話を頂き、一理学療法士、一社会人として、学術技能や人格を磨く事の必要性を改めて感じました。また、新人教育プログラムの今後の進め方が明確になり、とても参考になる内容でした。

堀尾先生に講演していただいた「教育方法論」では、メンタリングについてのお話を中心に頂きました。

メンタリングとは、「指導者の指示や命令によらず指導者が対話による気づきと助言による本人の自発的・自律的な発達を促す方法」と明記されています。自分はメンタリングという言葉をこの場で初めて知り、とても新鮮味があり興味をもつことが出来ました。

今後、自分の意見だけを押し付けるのではなく、相手の個性・考えを尊重し、患者さんや職場の先輩方などと上手くコミュニケーションをとれるよう意識して仕事に取り組んでいきたいと思っています。



循環器研修会「心不全のリハビリテーション」

黒部市民病院

小倉 久美子

平成22年6月27日(日)、富山市民病院において呼吸ケア研究会と循環器研究会の合同企画で学術研修会が開催されました。

「心不全に対するリハビリテーション」をテーマに、午前中は「呼吸器編」として、呼吸ケア研究会スタッフによる心不全の基礎知識や呼吸へのアプローチ方法等の講義が行われました。午後からは「循環器編」として、循環器研究会スタッフによる心機能の評価・治療の講義、午前・午後の総まとめとしてケーススタディが行われました。

どの講義もととても分かりやすく、明日からの臨床に役立つ内容でした。現在、心不全の患者を担当している方はもちろん、担当する機会がない方でも合併症として心不全を抱えているケースは多く、現在の状態を把握して重症化を予防することの大切さを学びました。

また、お昼の時間を利用して、(株)帝人在宅医療によるミニレクチャーが行われ、「オートセットCS」というASVを体験させていただく機会もあり、大変有意義な一日となりました。

今回、呼吸器・循環器双方の観点から1つのテーマを考えるという新しい企画により、疾患に対しての知識をさらに深めることができたと同時に奥深さも感じました。この研修会で学んだことを今後の臨床に生かしていきたいと思います。



骨関節研修会

八尾総合病院 西野 大助

平成22年7月3日(土)八尾総合病院において骨関節研究会主催による研修会が開催されました。中川整形外科クリニックの北澤修一先生を講師として「変形性膝関節症の積極的治療戦略」と題し、変形性膝関節症に対する診方、運動連鎖、治療コンセプトについて講義、実技をしていただきました。

講義では、従来の膝関節症に対する治療では、膝関節症の治療に限界があるということ、また膝関節症は膝関節のみの障害ではなく、「体幹から下肢への連続した運動器の破綻障害、つまり運動連鎖機能不全症候群」であるということを学ばせていただきました。

実技では、実際の臨床現場で、誰もがができる治療技術を、ポイントを絞ってわかりやすく指導していただきました。

今回、研修に参加させていただき、今までの自分が描いてきた膝関節症に対する考え方、治療を見つめ直す良い機会になりました。研修で学んだことを実際の臨床現場でいかせていきたいと思います。





スポーツ系研究会研修会報告「参加者の立場から」

西能病院 魚津千春

平成22年7月18日(日)、富山医療福祉専門学校にて、スポーツ系研究会主催の学術研修会が開催されました。講師には大沢野クリニック 柳瀬 克典先生をお招きし、「腱板の機能解剖と障害時の基本的評価・アプローチについて」をテーマにご講演いただきました。

肩の機能解剖と評価・アプローチを軸に、研修会前半では肩の関節可動域、圧痛の診方、整形外科的徒手検査など、基本的な構造・検査について実技も交えながらわかりやすくご講義いただきました。後半では、姿勢と肩甲骨位置、夜間痛、腱板損傷の病態、肩屈曲・外転時の肩甲骨動態と腱板筋活動、動作タイミング・協調性改善などといった応用的な点についてのお話がありました。基本的な構造から治療応用まで、幅広くかつ分かりやすい内容でとても勉強になりました。実技中にはベテランの先生方が巡回され、分からないところも細かくご指導していただいたので良かったです。経験年数の浅い私にとって、肩関節は複雑で、分からない事も多かったのですが、今回の経験を機にさらに知識を深めていきたいと思いました。



東海北陸ブロック臨床実習指導者研修会を開催して

丸川病院 井亦 聖

平成22年7月24日・25日の2日間にわたり、サンフォルテにて東海北陸ブロック臨床実習指導者研修会が開催されました。4名の講師をお招きし、臨床実習の進め方・指導方法についてご講演いただきました。

信州大学の木村貞治先生は、臨床実習の要点として人間関係の構築、実習生の物理的・心理的な居場所の設置、行動目標の明確化、それを達成するための方略の明確化、問題解決過程における概念モデルの呈示などを行っていくことの重要性についてご講演いただきました。



神戸国際大学の中川法一先生は、臨床実習は、学内教育では十分に担えない精神運動領域の教育の対象科目として位置づけしているとご紹介いただきました。また、具体的な指導方法として①指導者の作業を見て学ぶ ②指導者が手取り足取り教える ③できることを確認し自立させる ④指導者が手を退いていくというクリニカルクラークシップ、認知的徒弟制という指導方法についてご講演いただきました。

富山医療福祉専門学校の荻島久裕先生は、臨床実習をスムーズに行うためには、指導者が学生を理解することが重要であるにご講演いただきました。また、現代の若者の特徴として、①ストレスに弱い ②性格的に淡白・礼儀を知らない ③保守的でチャレンジ精神がない ④馴れ合いの小集団に身を置く、などご紹介いただきました。



富山医療福祉専門学校の酒井吉仁先生は、臨床教育とは「学生に対して臨床で意図した働きかけを行い、望ましい方向へ変化させること」とされており、行動変容を促していくことであるご講演いただきました。また、応用行動分析学の観点より先入観に惑わされず徹底的に環境要因を分析することで、具体的な解決策が見出せるとご紹介いただきました。学生が学習においてつまずいた際には、具体的な解決策を見出すことで行動目標が明確化され、問題解決を促進するとご講演していただきました。

講演終了後に、講演内容を踏まえて、事前アンケートによって得られた議題を基に3グループに分かれワークショップ(事例検討)を行いました。幅広い臨床経験年数の参加者の皆様からさまざまな意見が出され、内容の濃い充実したワークショップとなりました。質疑応答の場では、臨床施設、養成校、協会の立場から意見が出され、臨床実習教育の担う範囲、位置づけが明確になりました。

この2日間の研修会に参加していただいた先生方のご意見として、指導者としての心構え、学生との関わり方を明確にするためには、臨床実習の目的を理解することが必要である。「教育」を学ぶことは臨床実習だけでなく、患者に対しても意義は大きい。というご意見が寄せられました。

今後、指導者の立場となる私が、この研修会で感じたことは、指導者が学生の理解を深め、学生と一緒に考え、指導者自身の意見を呈示することで、理想の理学療法士像、医療人としての職業観が育まれるのではないかと思います。また、学生の指導に携わることで、指導者自身の知識・技能の研磨、理学療法士としての責務、医療人としての接遇を改めて考える良い機会になるのではないかと思います。



介護保険部研修会



平成22年8月6日(金)に介護保険部研修会「現状をみんなでしゃべらんまいけ! Part5」が、富山市総合福祉センターにて開催されました。

今回の研修内容は、はじめに介護保険制度の概要と介護保険制度におけるリハビリテーションについての説明があり、次に今回のテーマである「認知症短期集中リハビリテーション」を実際に提供している2か所の先生より、実施状況の現状報告を含めた発表がありました。

その後は、職場環境についての意見交換(グループワーク)が行われました。

短期集中リハビリテーションの実際についての報告では、チューリップ苑 阿部先生より、評価方法・プログラム内容・頻度などの説明があり、評価(HDS-Rなど)の点数としては、めだった変化は見られなかったが、暴力的だった方が穏やかになってきたというような現状も話していただきました。

にしの老人保健施設 富田先生からは紙面での現状報告でしたが、実際に行ってみて明確にリハビリの効果や日常生活での変化もまだ見られていないということでしたが、利用者様の生活歴や性

格を把握し、それらを活用した内容を中心にリハビリを進めていること、また拒否無く取り組み、続けられるようリハビリ内容を考慮しているとの事でした。

グループワークでは、認知症の方に対するリハビリでの対応について話し合いました。質問や苦労している事例についても参加者の先生より、環境設定や車椅子・機器のアドバイス等ありました。

今回は参加者が69名と大変多く、グループメンバーの職場環境も様々であり、介護保険制度についてのみの話し合いを行うことは難しかったのですが、急性期時点での理学療法で工夫している事や、その後の通所の時点での状況などの話を聞くこともできました。

(新 森)



健康増進に関する小研修会(第3回)に参加して

公益局保健事業部 竹 田 伊希子

8月28日、サンシップとやまにおいて、日本健康運動指導士会富山県支部副支部長の泉一郎先生を講師にお招きして「健康増進に関する運動の実際」と題して小研修会が開催されました。

泉先生には、富山県健康プラザで行われたメタボリック・シンドローム予防普及事業「生活改善教室“脱メタボ！ウェルネス講座”」の報告を基に、実際に行われている運動について、私達にもわかりやすく丁寧に教えていただきました。

運動における種類の組み合わせや目安の時間、ウォーキングにおける歩幅や歩き方については、私自身講習会等で勉強した内容の復習となりました。また、泉先生の対象者への言葉かけや指導のポイントは、実務において非常に参考になることが多く、参加された方々も今後の実務に役立てることができる内容であったように思います。

健康づくりのためには栄養・運動・休養のバランスが重要であり、理学療法士も健康増進に関する事業に積極的に関われる一職種であることを改めて実感する研修会でした。



講師 泉 一郎 氏



私のおすすめBook



本の紹介者

高志リハビリテーション病院 小畑 祥治

題 名：「脱出記 シベリアから
インドまで歩いた男たち」

著者名：スラヴォミール・ラウイツ
出版社：ヴィレッジブックス

ポーランド陸軍元中尉の著者は第二次世界大戦中にソ連当局にスパイ容疑で逮捕され、1年間にわたる拷問の末25年間の強制労働の判決を受けます。原題は“THE LONG WALK”。モスクワからイルクーツクまで家畜運搬車輦で運ばれますが、そこから真冬の北極圏近くのシベリアの収容所までトラックに引きずられて1,500kmを2ヶ月かけて歩かされます。収容所から6人の仲間と脱走し、ゴビ砂漠やヒマラヤを越え、インドまでの6,500kmを飢えと渇き、暑さ・寒さに耐えながら1年余りかけて歩きとおします。インドでイギリス軍に保護され脱走を成功させますが、後日談ではその後の苦悩がつづられています。今年の猛暑に負けない作品です。



本の紹介者

富山大学附属病院 新出 敏治

題 名：脳のなかの身体
—認知運動療法の挑戦

著者名：宮本省三 出版社：講談社現代新書

題名：脳から見たリハビリ治療
著者：久保田競 宮井一郎
出版：講談社ブルーバックス

今、書店にはたくさんの「新書」が並んでいます。「新書」の中から、リハビリテーションに関する二冊を挙げてみました。これらは本屋さんをブラブラしている時にふと目に留まったものです。内容がどうと言うよりも、リハビリの治療法が一般向けに書かれていることの方に驚いて、思わず買ってしまいました。

実は、最近めっきり読書することが減り、当然専門書もほとんど読まなくなっています。本を読む機会が少なくなったのは、時間がないというよりは、根気がなくなったせいかもしれません。特に難しい本は、目には入っても頭には入らず、すっかり読めなくなりました。元々読解力も理解力も記憶力も低いので、難解な専門書を読んでも理解できないことがほとんどです。

「新書」は一般向けに書かれてあるためか、分かりやすく書いてあることが多く、比較的読みやすいようです。しかも、小さくて、持ち歩けるのも利点です。リハビリテーションに関連したものはこの他にいくつかあり、関連領域のものやそれ以外のものは多数あります。自分の興味のある分野やテーマのものを探してみたいかがでしょうか。

ついでにもう一冊…

題 名：〈勝負脳〉の鍛え方

著者名：林 成之 出版社：講談社現代新書

これは富山県出身の脳外科医が書いた本です。来年に行われる東海北陸学会の特別講演でお話されると聞きました。ここでは内容の詳細には触れませんが、もしタイトルに興味があれば、どうぞ。



本の紹介者

富山医療福祉専門学校 徳田 裕

題 名：越中文学館

著者名：北日本新聞社編集局 出版社：北日本新聞社
多くの富山ゆかりの文学作品を紹介してある本です。数多くの作品のポイントや作者の人物、舞台となった場所などが写真と共に紹介されており富山の文学を幅広く知りたい方には良いガイドブックなる事と思います！

題 名：リーダーシップの本質

著者名：堀 紘一 出版社：ダイヤモンド社

リーダーとは何か？リーダに必要とされる役割（ビジョン、戦略、組織、人事、カルチャー）、行動（夢を語る、手本を示す、チャンスを与える、考えさせる、誉める、勝…）など、一流の人の姿勢を垣間見ることによって、自分自身をモラルアップさせる人にはGOODな本ではないかと思っています。

本の紹介者

厚生連高岡病院 菱田 実

私にとっての永遠のバイブルは、なんてったって『北斗の拳』ですが、すでにご存知の方も多いと思いますし、マンガやし、ケンシロウのまゆ毛濃すぎやし、今回はちょっと違った本をご紹介します。



題 名：「話す」「書く」「聞く」能力が仕事を变える！
伝える力

著者名：池上 彰 出版社：PHP ビジネス新書

「伝える」には、「話す」「書く」そして「聞く」能力が必須です。仕事のさまざまな場面でコミュニケーション能力は求められますが、これがまた意外と難しいものです。現代のビジネスパーソンに不可欠な能力といえる「伝える力」をどうやって磨き、高めていったらよいのか。その極意が紹介されています。

題 名：一流の習慣術

イチローとマー君が実践する「自分力」の育て方

著者名：奥村 幸治 出版社：ソフトバンク新書

この本の著者は、かつてイチロー選手の専属打撃投手として、寮も食事もグラウンドも共にし、「イチローの恋人」とまで呼ばれた人物です。後に、中学硬式野球の指導者となつてからは、楽天の田中将大投手を育て上げました。確実に結果を残す彼らの原点にあるものや、凡人が一流になるための本質を知ることができます。

題 名：イレギュラー

著者名：三羽 省吾 出版社：角川文庫

出張の帰り道、東京駅で何気なく買った本ですが、結構面白いです。水害にあった村にある通称二ナ高のダメ野球部の熱い青春ストーリー。高校野球好きの方、是非読んでみてください。

アッサラーム・アレイコム ヨルダンから富山へ

青 年 海 外

アッサラーム・アレイコム。こんにちは。日本の夏も暑かったと聞いていますが、ヨルダンも昨年より暑い夏でした。昨年は汗なんてほぼかかなかつたように記憶しているのですが、今年は毎日汗。そして昨年は毎日空が真っ青でしたが、今年は雲がありました。蒸し暑いわけです。

さて、任期も残すところ約1か月となりました。今回でこのレポートも最終回となります。なので、ここヨルダンという国の理学療法について感じたことを、自分なりにまとめてみようと思います。

ヨルダンの理学療法士は、諸外国同様、医師と同じ高い位置づけにあります。先進国・途上国に限らず、そういう国では「アシスタントに指示を出すのがPTだ」という国も多いと聞いたことがあります。まだヨルダンのPTは自分たちが治療を行ってはいませんが、ADLに関してはPTの仕事とは思っていないようです。PTは患者の身体機能を上げる人、トイレ介助は別の人の仕事、という

認識があるようで、実際にトイレに行ってトイレ動作をさせてみることもしません。

治療は同疾患に対して同一治療をしていることが多いです。まず評価がしっかりできていないので目標を個人に合わせて設定することもできず、ほぼ全員の目標が「歩くこと」なので、歩く練習だけをして終わりということもよくあります。しかしヨルダンでは、PTの概念がすでにそのように出来上がっているので、ADL中心の治療や遊びながらの座位・立位練習などは、患者さんや患者の親には受け入れられにくい印象です。

また同じ任地には脳性麻痺センターもあり、月に数回遊びに行っていました。そこでのPTも他動関節可動域運動が主で、子どもが泣いていても続けます。親は泣きやむようにとあやすのですが、無理やり行っている体操が終わるまでずっと泣いている子も多くいます。泣いてもこれがこの子のためになるなら、という思いもあるのか、親もその光景が当たり前のようです。

さらに養護学校が少ないので、特に地方に住んでいると脳性麻

痺の子どもは学校に行けないことも多く、家の中で毎日を過ごしています。そのため具体的な目標を設定する必要性もなく、悪くならないようにとだけ思うのも無理のないことなのかもしれません。

ヨルダン人PTは、患者一人ひとりに何が必要かというよりも、自分がラクをできる方法、例えば「腰痛には〇〇体操」のような万能の治療を求めているように感じるが多かったです。仕事に対する意識自体が日本と大きく異なるとよく感じました。そしてよく考えていたのは、



理学療法場面1



理学療法場面2

協力隊通信 ファイナル

片山 美穂



ヨルダンでの理学療法の一場面
これが普通の様子です

概念を変えることは相当難しいということ。例えば、ヨルダン人はゴミをどこにでも捨てるのが当然だという概念を持っています。概念を変えるということは、ゴミを捨てることが悪いことではないと思っている人に、「それはよくないことだ。日本はゴミを捨てない。だからゴミを捨ててはいけません。」と言っているようなものだと思います。異なる文化や習慣を持った人々の間で暮らすことでの葛藤と妥協は常にありましたが、自分や日本を客観的に見るのが少しずつできるようになりました。概念は文化や宗教とつながっている部分もあるので、概念が変化していくためにはやはり相当の時間がかかるものだと思います。

実際活動先には、PTが2人とアシスタント1人しかいませんでした。日々の活動にて彼らの概念の変化を少しずつは感じますが、自分がPTとして2年間ヨルダンにいた影響力は、微々たるものだったと振り返っています。しかし強調しておきますが、2年間ずっとヨルダンの理学療法に対して悩み苦しんでいたわけではないことは、前号までの報告の通りです。私はここヨルダンで、QOLの向上、特に入所者の生活を楽しくするようにという視点を持ち、「障害者の社会参加」と「障害者の

社会参加の啓発」を中心に取り組んできました。ヨルダンでは、障害者個人の精神的・身体的な理由というよりもむしろ、文化や障害者に対する概念等の制約によって社会に障害者を受け入れるお皿がないと感じ、障害をもっと社会全体の中であらえていかなければならないことを学びました。そして専門性を追究する日本の理学療法の面白さを再確認できました。それ以上に楽しい経験もたくさんしました。ヨルダンでの経験は、日本ではできない貴重な体験でした。この経験を踏まえ、今後も理学療法士として成長し続けていきたいと思っています。10月から一旦富山に戻りますので、気軽に話しかけてもらえると嬉しいです。それでは日本にて！



同僚PTを巻き込んで、一緒に治療をしている場面



リレーエッセイ

富山県身体障害者更生相談所 船木 美喜子

私は、現在富山県身体障害者更生相談所に勤務しています。以前は小児施設である富山県立高志学園に勤務していました。

ところで、皆さんは身体障害者更生相談所で、PTがどのような仕事をしているかご存じでしょうか。恥ずかしながら私は、3年前の異動発令で更生相談所へ行くまで、業務内容について全く知りませんでした。私の主な仕事は、行政機関として、自立支援法に基づく補装具費支給に関する判定業務を行なうことです。しかし、更生相談所にPTが配置されるのは初めてのことであり、それまでは、身障福祉司の方がこの業務を行っていたとのことでした。小児の施設でしか勤務経験のない私には、臨床から事務職への転向はかなり高いハードルでした。臨床家としての患者さんへの思いと、行政機関としての制度の運用をバランスよくできるのか、異動前後は不安な毎日でした。その不安に対応するために、とりあえず二つの目標を立てました。一つ目は判定業務や相談に対して、PTとしての専門性が反映できるようにすること。二つ目は、それまで全く依頼のなかった訪問診査支援を充実させることです。訪問診査支援とは、市町村の依頼により、家から出て医療機関にかかることのできない方や、施設を訪問してPT等が助言やアドバイスを行う事業です。幸い所属長にも支援していただき、当初判定中心だった業務が、訪問診査支援でPTとして出かけることが増えてきました。判定業務や相談に関しても相手の方の状況に合わせて柔軟に対応できるようになりました。

「PTは面白い!」と思える瞬間、かつては自分が治療的に介入することで子どもさんが変化した時でした。今は新しい環境や課題に対し、自分自身が適応してきたなと感じられた時です。他県ではかなりの割合でPTが更生相談所に勤務しています。富山県のPTの職域拡大という点でも微力ながらお役に立てたと、勝手に自負しております。

編 集 後 記

とにかく今年の夏は暑かった。空を見上げると入道雲、ふと『セミとり』に『川遊び』に真っ黒になって遊び回った子供の頃の情景と重なりました。ただその情景に違いがあった。一面青々とした緑の山々が今では山のあちこちに枯れ木が異常に目につくことです。山だけでなく里にも、この先が心配です。

心配なのはその自然のみでなく子育て放棄にみられる家族関係なども、まさしく人間関係障害といえる昨今です。(田村)

今年の夏は、猛暑。県内では真夏日が2週間以上続き、熱中症で病院に搬送される方が絶えません。私自身も夏バテ気味で、体も頭も働かない毎日。涼しい秋が恋しいです。(滝田)

今年の夏は、とても暑い夏でした。例年あまり使わないエアコンもフル稼働!!この使い過ぎた電気代をこれからとりもどそうと思います。(長谷)

まだまだ暑いですね。秋なのに…。(荒木)

暑すぎる夏をなんとか乗り越えました。暑い時は患者様と一緒に飲水する時間を楽しみにリハしていました。今度は何を楽しみに頑張ろうかな…。(団)

暑い日が続く、利用者さんだけでなく、職員も体調を崩される方がいます。この号が出る頃には、少しは過ごしやすくなってほしいです。(坂田)

今年は、仕事もプライベートもなんだかバタバタで、暑い夏もいつの間にか過ぎてしまったみたいです。次号は新年号。今から特集記事に追われ、まだまだ頭をかかえる日々が続くそうです…。(中谷)